

## 淀川水系流域委員会 第10ダムWG 結果概要

開催日時：2004年12月5日（日）9：00～13：35

場 所：カラスマプラザ21 8階大・中ホール

参加者数：委員28名、河川管理者（指定席）14名

一般傍聴者（マスコミ含む）179名

本稿は、議事の概要を簡略にまとめたものです。詳細な議事内容については、後日公開される議事録をご参照下さい。

- |  |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"><li>1．決定事項</li><li>2．審議の概要<br/>利水の状況について<br/>ダムの調査・検討について</li><li>3．一般傍聴者からの意見聴取</li></ol> |
|--|

### 1．決定事項

特になし

### 2．審議の概要

#### 利水の状況に関する説明と意見交換

河川管理者より、利水の状況について、資料 1-1「利水についての中間とりまとめ」、資料 1-2「京都府営水道について」、資料 1-3「三重県（伊賀水道用水供給事業）について」を用いて説明がなされた。その後、引き続き、意見交換が行われた。主な意見は以下の通り（例示）。

- ・ 青蓮寺ダムからパイロットファームに送水されているが、利用状況が低下している。あるいは農地として使用する予定地が他の用途に転用されているという実態がある。青蓮寺ダムからの送水について、他の用途に転用される可能性があるか。  
農業用水は、作付けにもよるが、灌漑期、非灌漑期の変動が大きい。最大取水量がそこまでいっていないということだけで、一概に転用するわけにはいかない（河川管理者）。
- ・ 京都府の暫定参加というのはどういうことか。  
宇治浄水場系について、天ヶ瀬ダムからの水利権が確保されているが、大戸川ダムと丹生ダム、天ヶ瀬再開発が事業中であるということと、既に需要が発生しているため、ダム参画を担保にして毎年更新して許可をしている状況である（河川管理者）。
- ・ 資料 1-1 では、京都府と三重県は協議を進めているとしているが、協議はどのような

方向で進められているのかが問題である。

ここに書いてある通りで、三重県は減量の見直し結果が出ているので、その可能性を含めて協議していくということ。京都府は減量すると、天ヶ瀬ダム再開への参画が不可避で、丹生、大戸川の撤退の可能性を含めて協議していくということである（河川管理者）。

### **ダムの調査・検討に関する説明と意見交換**

河川管理者より、資料 2-1「淀川水系 5 ダム調査検討について（中間とりまとめ）」を用いて、丹生ダム・大戸川ダム・天ヶ瀬ダム再開・川上ダム・余野川ダムの調査・検討について説明がなされた後、意見交換が行われた。主な意見は以下の通り（例示）。

### **丹生ダムの調査・検討に関する意見交換**

- ・ 環境の部分では、ダムを使った環境再生に関する基本的な姿勢を示していないので、疑問を感じる。

環境の問題については、各ダム共通事項として 2 頁に記述している。また、4 頁の(2) の環境への影響では、異常渇水対策のための容量確保と適切運用により琵琶湖の水位低下抑制が可能で、結果として魚類の産卵、成育環境の保全にも寄与すると考えている。ただ、水位低下の抑制では、環境に対してどの程度の効果があるのかを示せていない（河川管理者）。
- ・ 丹生ダムは、重大な影響があると考えていないとしているが、重大の判断基準は。また、その場合、予防原則の考え方が入ったものかどうか。

判断基準は難しく、明確な定義をつくることはできない。個々の現象をみて判断したい（河川管理者）。
- ・ 丹生ダムの「重大な影響があるとは考えていません」というのは、河川管理者の一定の認識を示していると思うが、ダムにより重大な不可逆的な影響が、特に生態環境に及ぶと思っており、見直して欲しい。
- ・ ダム建設については、環境への影響と軽減策実施後の環境への影響を検討するとしているが、この自然に対する問題での「軽減」という言葉には非常に差があり、軽減策という判断が非常に曖昧ではないか。
- ・ 日本でダムができて 40 年たっており、これまで多くのデータがあり整理されているはずであるが、過去の経験から対応できることが書かれていない。避けられるもの、避けられないものがあるはず。資料の提供ができていないことに問題があるのではないか。
- ・ 森林環境喪失等の問題に対して、どうしていくのか。どのような方法で評価するのが問題。

環境への問題については、十分に説明できているという認識ではなく、今まで各ダムの目的に関連して議論してきたが、そこまでの結論だけでダムの是非が決まるという認識ではない。環境の問題については、これまでも資料を提出し

てきたが、その資料で影響をどう判断するかというところまではしていない。

今後、調査を行い議論していかないといけない（河川管理者）。

- ・ 環境への影響については、5ダム全てに今後検討すると書いてあり、中間とりまとめとはいえ、環境軽視の印象をぬぐえない。ダムごとに問題店は違うのでは。  
特に、丹生ダムの融雪水は大きな課題と認識している（河川管理者）。
- ・ 環境の問題は、どの程度の時間の幅でみるかであるが、長期的にみる必要がある。最初にダムの効果があっても、20年たってどうなのか。

### **大戸川ダム・天ヶ瀬ダム再開発の調査・検討に関する意見交換**

- ・ 天ヶ瀬ダム再開発による環境への影響として、放流能力の増大による低周波音の拡大とあるが、現状では確認しているのか。  
現状では確認しており、基準をクリアしている。放流能力を拡大すれば再度、検討する（河川管理者）。
- ・ 鹿跳溪谷の流下能力を高める方法は。  
直接、関係していないので、ここには書いていないが、整備シートをみて欲しい。景観上、保全したいと考えており、トンネルで鹿跳溪谷をバイパスする案を中心に考えている（河川管理者）。

### **川上ダムの調査・検討に関する意見交換**

- ・ 三重県は利水の水源を川上ダムに切りかえるということだが、小さいな水源を持つよりも大きなダムの方が経済的かどうかの検討していただきたい。  
三重県の利水については、県の事業再評価の手続きが遅れており、そのなかで経済性を含めた検討がなされている（河川管理者）。

### **余野川ダムの調査・検討に関する意見交換**

- ・ 治水面で建設に対するかすかな方向を見出しているようだが、ダムを建設した場合でも正常流量の確保は当然であり、これは建設の目的にはならない（今本リーダー）。
- ・ 余野川ダムは、水を絞ることによって洪水対策をすることのことであったが、今回は、たくさん流れるようにするということであり、神崎川の洪水対策はどうなってしまうのか。議論が振り出しに戻るのではないか。また、住人対話集会では早く結論を出して欲しいという声があり、そうして欲しい。  
開削した場合の下流に対する影響は、猪名川だけではなく神崎川も含めて考慮しないといけないこと。神崎川は、事業を進めている県の計画を確認したうえで、本日の結論を示している（河川管理者）。
- ・ 河川の洪水を早く下流に流すというのは、今までの思想と変わらず、総合治水対策が後退してしまっている。また、降雨のレベルを決めて、銀橋の上と下を切り離してという考え方であるが、実際は全てが動くわけで、狭窄部を開削することによって、全ての洪水に対して大丈夫だということができるか。

下流で破堤の被害の危険性を増大させないことがポイントで、水位を下げる方法で何とかするということを行ったもので、現時点でコスト面で考えたときは掘削という方法が最もよいということ（河川管理者）。また、代替案は、効果の大小やダムのは非に係わらず、計画のなかに位置づけるものではないが、やっていくべきものという認識（河川管理者）。

- ・ 流域委員会としては、下流との関係で狭窄部は原則として開削しないと言ってきたが、開削するのならば、そういう検討をしていく（今本リーダー）。

#### **全体の意見交換**

- ・ 各ダムの施策のなかで堤防補強は、ほとんど出ておらず明記する必要があるのでは。丹生ダム、川上ダムは、治水について即効性があるとしているが、利水の撤退が明らかになり、加えて、環境問題や財政の制約等の問題がある。ダムを建設するのに7～10年といっても、本当にその期間でできるのか。ダム以外の方法で治水対策ができるのではないか。

今回はダムなので明記していないが、堤防補強は、最優先で実施していくということである。即効性については、ダム以外の方法では用地の問題、計画を受け入れるための時間もあり、7～10年で効果が発揮できるというように自信を持って言えない。

- ・ 自身のなかでは、治水に対する基本的な考え方は、河川審議会の答申を根拠に考えてきたが、そうした経緯で代替案というのは、ダム計画に至る考え方の根拠そのものを問題にすると理解している。だから、ダムをつくらないことを前提とするのであるが、出されてきた代替案は、気迫に欠けるのではないか。

真剣に考え、徹底的にダムではない方法を検討してきたつもり（河川管理者）。

- ・ ダムは賛成であり、教育関係からみたダムの概念を構築して欲しい。どうしても都合の悪いところは無理でも、できるところはできるだけ貯めて、教育という立場からダムを見直して欲しい。
- ・ 環境は常に変わっていくもので、必ずしもそのままにした方が評価できるかは、考えないといけない。何のためにダムをつくるかを考えて、影響が少しでも少なくするのであればどのようなダムにするかも視野に入れるべき。また、ダムをつくらないことにより、全川を掘削すると環境面での影響が大きい。それも考えて欲しい。
- ・ 地域の方達だけを向いてダム建設に踏み切ることについて、本当に社会的な公益性という観点から正しい判断になるのか、疑問に感じている。地域住民の問題だけでなく、流域住民あるいは納税者としての国民全体の問題として対応すべき。また、川上ダム建設現場の前深瀬川は、かえがえのない環境があり、川上ダムの建設は見直して欲しい。

### 3. 一般傍聴者からの意見聴取

一般傍聴者9名より発言があった。主な意見は以下の通り。

- ・ ダムが不要とか賛成という声がない。状況は、ダムの準備も含めて、着々と進められている。委員会に力が入っているのか。流域住民から見ると、今の議論はさっぱりわからない。
- ・ 岩倉峡の開削は、下流への影響を考え当面できないと言ってから38年経過しているが、今だに当面開削できないと言っている。また、下流の流下能力も流出解析も問題があると思う。
- ・ 水資源機構のダムは、新規利水がなくなれば法的根拠がなく全面撤退すべきである。利水をこれまで明らかにしなかったこと自体がおかしく、その間工事が進み撤退しにくくなっている。また、三重県の利水については、利水需要が減ると供給コストがあがり、それでも本当に確保する必要があるのか。
- ・ 川上ダムは軟弱地盤で断層もあり、対策費だけで1500～2000億円を要する。それでも必要なのか。
- ・ 京都府の利水の見直しは評価している。異常湧水の問題については、大川の維持流量のカットが大きな意味を持つ。参考資料-1に回答結果があるので読んで欲しい。
- ・ 川上ダムは、既往最大規模の洪水に対し、上流遊水地等で対応が可能であるが、それでも必要だと地元に対して提示しているのは不思議だ。
- ・ 新潟や福井の水害は、ダムがあっても起こった。環境や財政の問題からダムのコストパフォーマンスは非常に低い。環境負荷の大きいダムから撤退して、堤防強化、掘削、森林整備、遊水地等を充実して欲しい。
- ・ 発言はダム反対ばかり、環境問題ばかりで、何故、賛成という意見が出ないのか。
- ・ ダムは治水面での必要性は明らかで、利水容量も載せるべきだ。

以上